

# 橘町の見どころ

## まちの歴史シリーズ ④⑥

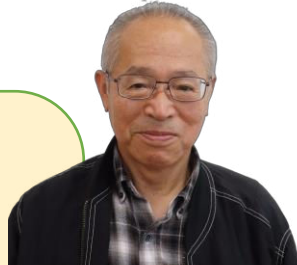
橘町HP <https://tachibana-net.jp>

歴史・史跡をクリック

発行：橘町まちづくり推進協議会  
ふるさと部会  
発行日：令和8年4月1日  
責任者：吉野 勝美  
原稿作：宮下 正博  
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

南片白区長 鳥越 祐市さん



公業さんのこっちに來んさって  
から南片白の東福寺と争った  
って聞いたバツェン、なして争った  
とや？

そいに、公業さんが橘長島庄)に  
やってきた時、どがんことば考えん  
さったとやろかナィ？



### ●橘盆地の開発の流れ

- 橘盆地では、弥生時代に田んぼができるけど、最初は山水を利用して潮見山や杵島山のふもとに田んぼができていったと考えられる★①ヨ。
- 古墳時代には田んぼが広がっていく。
- 潮見古墳や玉島古墳は、当時の地元の豪族の墓★②だね。
- 平安時代には各地に莊園ができ、権利関係がどんどん変わっていく。

### ●公業さんが来た頃の長島庄

- 公業さんの頃は、大日や南片白くらいまで田んぼが広がったと思うネ。
- 東福寺も山水が絶えない★③ので古代から開発され、その権利は東福寺★④というお寺が持っていたんだ。

### ●橘に來た時、何を考えた★⑤？

- 潮見の館に拠点を構えた公業さんは、たぶん、こんな感じだったんじゃないかってのを、今回もAIさんに書いてもらったヨ

### ●主な登場人物



橘公業 (主人公)



解説はタッパ君



AI自画像

### ★① 初期の橘盆地の水田 (はじまり)

郷土誌「橘町史跡めぐり」で吉野千代次さんは、「潮見山は出水の多い堆積層の山で、今でも潮見地区には出水を主な水源とする水田が残っている」と8Pに書かれているね。



### ★② 潮見古墳や玉島古墳

同じく郷土史9Pに「この地区(潮見)が早くから稲作が行われて、富の蓄積が進んでいたためだろう。」「このような地域だったから、6世紀の初めに玉島古墳、6世紀の中頃に潮見古墳ができたのだろう」と書かれているよ。

僕は、潮見だけでなく南片白・東福寺にも枯れない出水を利用して、田んぼが早くからできたと思うんだ。

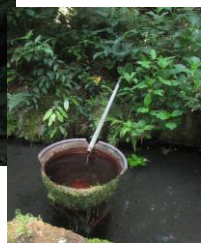
### ★③④山水の絶えない東福寺



東福寺への参道



今は庵寺となつて、地元で世話をされている



争論の元となった水源

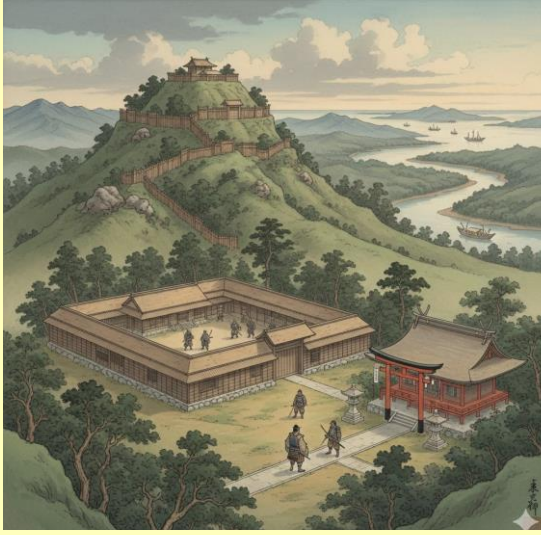


# たぶん こうじゃなかったらどうか？

## げきじょう 劇場 第3弾

今回も AI さんにたのんだヨ

### 潮見山の麓に館を建てた

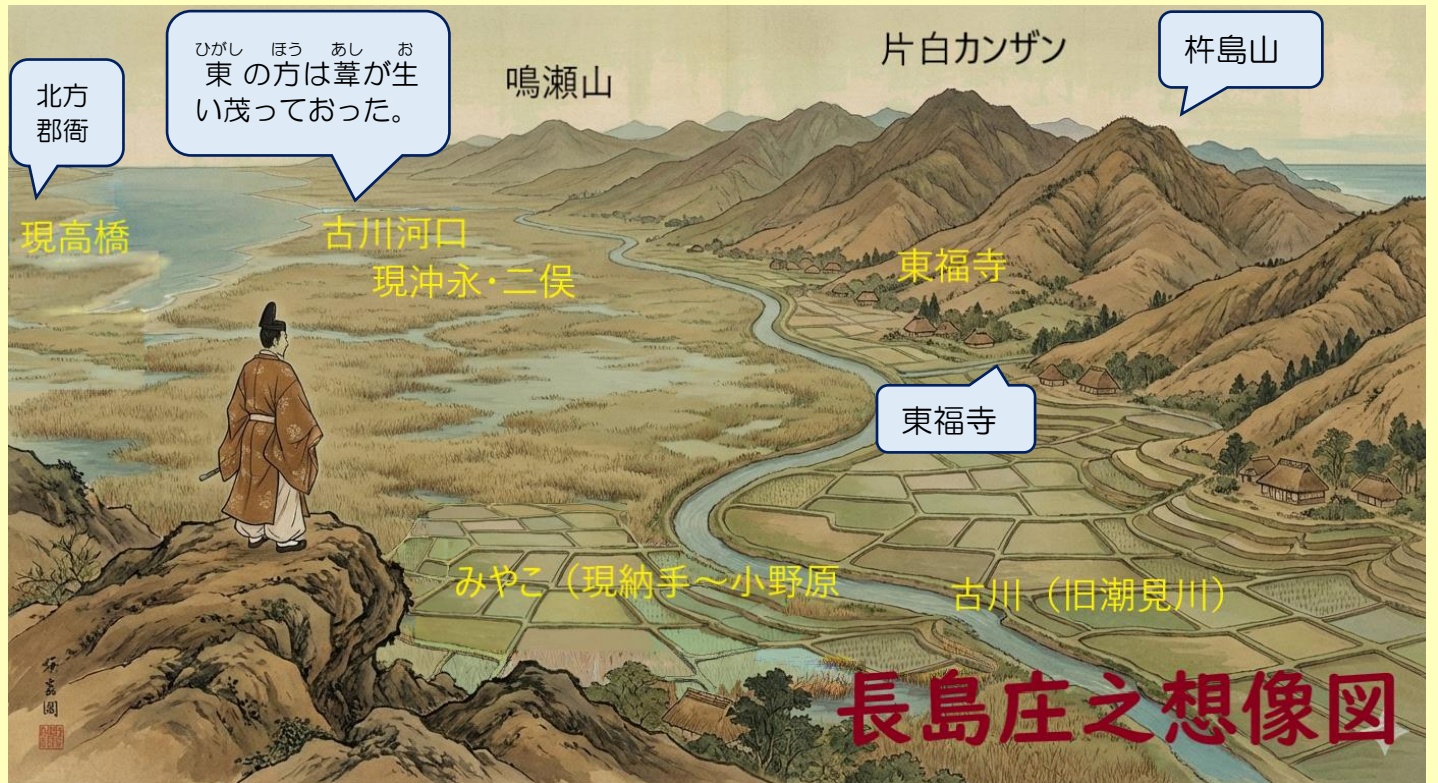


ワシは、<sup>ながしましやう</sup>長島庄に入ると、  
<sup>しおみじんじや</sup>潮見神社の奥に<sup>おく</sup>拠点<sup>きょてん</sup>を<sup>かま</sup>構え  
 そこを「<sup>た</sup>館<sup>だん</sup>（たち）」と呼んだ。  
 なぜこの<sup>ばしよ</sup>場所<sup>えら</sup>を選んだかって？  
 それはのう、この地に<sup>せいりよく</sup>勢力<sup>は</sup>を張って  
 いた<sup>ものたち</sup>者達とのいざこざを<sup>さ</sup>避けたかっ  
 たから<sup>だ</sup>注②じゃ。



- 注① 館は、今の中宮の南、潮見城への登山口にありま。潮見遺跡を調査した人は、潮見遺跡を橘氏の館跡としましたが、その後、佐賀県の調査では、潮見遺跡は家臣団の拠点ではないかとされています。
- 注② 服部英雄氏は、郡衙のあった北方周辺から離れた場所を選んだのではないかと推測されています。

そして、<sup>しおみやま</sup>潮見山の山頂<sup>さんちやう</sup>にある「<sup>しまみしや</sup>島見社<sup>まい</sup>」にお参りしたんじゃ。そこから、<sup>ながしましやう</sup>長島庄<sup>なが</sup>を眺めたのが、  
 下の<sup>す</sup>凶<sup>おもてめん</sup>じゃ。これには、<sup>じがそう</sup>表面<sup>か</sup>で<sup>お</sup>自画像<sup>じがぞう</sup>を描いてもらった AI さんに<sup>たす</sup>だいぶ、助けてもらった。  
 大分海が入り込んでしまったがのう。東福寺との<sup>そうろん</sup>争論<sup>じかい</sup>の話は、<sup>いこう</sup>次回以降<sup>こう</sup>に持ち越しじゃ。



注) ウィキペディアによれば、「公業は秋田開発において、**水運を積極的に強化**し、八郎潟舟運と雄物川舟運を日本海で繋ぎ、河川においても舟運に従事し秋田平野の開発を推進した。**八郎潟東岸には巨大な製鉄炉を建造**し洲崎には**堀で囲まれた武家屋敷街を建設**した」とあります。公業がやってきた当時は、潮見川は杵島山の麓を流れ、橘盆地の北半分は葦でおおわれその奥に有明海の河口が白石辺りまで見えていたと想像します。

注) 上2枚の絵は AI に描かせ、宮下が一部加工を加えたものです